



県民参加でつなぎましょう！…自然環境の保全是地道な調査の継続が欠かせない

寄稿：中山 裕美（徳島県県民環境部自然環境課）

【アカウミガメ上陸産卵調査に

ご興味のある方はいらっしやいませんか？(^)/

徳島県は、霊峰剣山を中心に緑豊かな四国山地に源を発する吉野川や那賀川、海部川など大小の河川、さらには、変化に富んだ海岸線など全国的に見ても水にたいへん恵まれた県といわれています。

特に、太平洋に臨む地域は、その大半が室戸阿南海岸国定公園に指定されており、断崖絶壁の岩浜や白砂青松を誇る砂浜など、優れた景観は言うまでもなく、亜熱帯性の植物やイシサンゴ類、熱帯性の魚など極めて多様性の高い動植物が生息生育していることでも知られています。

中でも、遙か北アメリカと日本近海の間を回遊すると言われているアカウミガメは、日和佐町大浜海岸においては国の天然記念物に指定されるなどし、昔から私たち県民にとってもたいへん馴染み深い野生動物であります。

しかしながら近年、様々な理由により、多くの野生生物の絶滅が危惧される中で、残念ながら本県のウミガメもその生息が危ぶまれるようになっております。

そこで、平成11年度からアカウミガメの上陸産卵調査を実施し、上陸産卵がみられる海岸付近の地元の方を中心に、約十数名の方に、ボランティアとして海岸ごとの上陸産卵調査及び上陸産卵数の報告をしていただき、県はボランティア調査者よりいただいた報告の取りまとめを NPO 法人日本ウミガメ協議会（大阪）に委託し、さらに県にて経年変化データを蓄積しています。

また県は、平成18年3月に制定された徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例に基づき、アカウミガメを指定希少野生生物として指定し、捕獲等について原則禁止とし、許可無く捕獲等を行った場合は、罰則を適用することとしています。

現状では、上記のとおり県南部を中心に、ボランティアで地元の方々を中心に上陸産卵調査を行っていただいておりますが、**ボランティアの方々の高齢化等により、上陸産卵調査にご協力いただく方が不足しています。**

全国的にも有名な徳島県のアカウミガメを見まもるボランティア調査にご興味のある方は、是非こちら自然環境課までご連絡いただければと思います。また、年2回、NPO 法人日本ウミガメ協議会亀崎氏による研修会・講習会を行っていますので、こちら自然環境課までご連絡いただければご案内させていただきます。県民の皆様のご協力をお待ちしております\(^o^)/

【調査内容】

調査期間

毎年5月1日～8月31日

調査対象

徳島県沿岸域の鳴門市から海陽町穴喰までの砂浜

調査内容

砂浜に残されたアカウミガメの上陸跡及び産卵後の確認等

応募・問い合わせ先

〒770-8570

徳島県自然環境課自然共生担当

TEL：088-621-2262

FAX：088-621-2845



ビオトープ・サロン お便利コーナー

記者：読者の皆様

【読者：Yさん / 008を読んで】

ビオトープ・ニュースをありがとうございます。いつも楽しく拝見させてもらっています。でも、(ビオトープ気延の里が)ここまでに来るには、色々困難を乗り越え、仁木さんたちの成果が表れてきているのがよく解りました。また、お便利待ってます。

【読者：I小学校のS先生 / 夏休みの近況報告】

こんにちは。夏休みもあと少しになってしまいました。I小学校のビオトープは、大量に発生する藻と戦いながら何とか夏を乗り切れそうです。たくさんのカエルがビオトープで遊んでいます。毎年姿を見せるヘビのタロちゃんも、今年まだ顔を見せていません。いいお天気で今日はトンボがスイスイ!...といったところです。

ビオトープ・サロン 会員紹介コーナー

記者：編集担当

007号に続き、会員の紹介です。二番手の会員の生態的特性？を列記しました。

【人間も生物の一種に過ぎないのですね！？…自らの生態把握】

個 体 名：榎本 幸実（かしもと こうじ） 推定年齢 54 歳（聴取・資料等より）
 種 名：登録ランドスケープアーキテクト（RLA）…（社）ランドスケープコンサルタツ協会認定の有資格者
 属 名：（株）環ヴィトーム（常勤：公共事業）/（株）景域環境技研（非常勤：民間事業・住宅庭園等）
 原 産 地：徳島県阿波市土成町（18歳の春に採餌技術を求め南方へと渡り宮崎と大分で仮宿暮らし）
 営 業 地：原産地に同じで在来種（31歳の夏に修得技術を発揮すべく帰郷し数年後に営業する）
 行 動 圏：徳島県下（環境悪化でテリトリー拡大および新たなニッチの確保という難問を抱える）
 行 動 形 態：昼間は徳島市を拠点に各地で活動（夜間と休日は営業地に帰郷するが昼間は殆ど不在）
 採 餌 活 動：建設コンサルタント造園部門（人間の生息環境の改善と質的向上を研究・提案している）
 主 食：都市・農村の環境整備/自然環境の保全・利用/住いの庭等 水・緑・空間・環境の計画・設計
 副 食：何でも食す雑食性（造園学は雑学とも総合学とも言われるように範疇は多岐にわたる）
 生 息 環 境：縁の下（力持ちか否かは不詳だが事業者の代理人であり表に出ることが殆どない黒子役）
 変 異：社会的要請から身近な自然の保全と利用や環境教育・学習などの社会活動にも時間を割く
 特 徴：技術士（総合技術監理部門：建設・都市及び地方計画）/環境カウンセラー（環境省）など
 そ の 他：希少種（徳島県下には1個体：地域絶滅危惧種…生息域は大都市に集中している）

こうしてみると、人間も生物の一種だと再認識しませんか？（どこかで使ったネタですが）。また、名前や形態だけではなく、生態的な特性を知ること、顔を見たことのない方でも距離が少し近くなったのではないのでしょうか？…ビオトープの保全や創出を考える時も、そこに暮らす生き物の名前や形態だけでなく、生活史をはじめとする生態を知ることが大切で、それが関心や親しみにつながると思います。

今回の会員紹介は、ご幼少の頃から野鳥をこよなく愛する「平岡竹美さん」につながりますので、よろしくお願ひします。平岡さんは建設業を営む傍ら、地域の環境保全活動にも取り組まれておられます。（タイムリーな記事を優先するため、会員紹介コーナーの掲載は不定期になりますので、あしからず：編集担当）

ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー

記者：犬伏潔（会員）

【Q：Hさん】

メキシコマンネングサの原産地は何処でしょうか？

【A：メキシコ原産が有力】

「メキシコ原産と記したもの」と「はっきりとはわからない」の双方の見方があるようです。いずれにせよ、**帰化植物**であることには間違いないようで、分類学の専門家に問い合わせたところ、手持ち資料では**メキシコ原産**ということでした。戦後に、**米軍の関係者**が持ち込んだという説があるようで、**観賞用に持ち込まれた物が野生化**したようです。この説が正しいとすれば、**新帰化植物**であり、**扱いには要注意**ということかな？

何故に、「原産地を知りたい」「疑問を持たった」のかということに関心があります。乾燥に強いので、**屋上緑化材**としても試みられたようですが？…昼間は気孔を閉じ蒸散を止めるので、**気化熱による冷却効果**はないようです。メキシコマンネングサはベンケイソウ科セダム属の植物ですが、ベンケイソウの仲間には**特殊な光合成**を行うそうです。夜に**気孔を開いて**二酸化炭素を取り込み、リンゴ酸という物質に変えて貯え、**昼は気孔を閉じて**貯えたリンゴ酸を使って光合成を行うとのこと。この方法は、気孔を閉じて蒸散による水の損失を少なくできるため、**乾燥地の植物**には適しています。しかし、昼に蒸散を止めるため、**水の気化熱による冷却**ができないこととなります。つまり、せつかく緑化しても、**冷却効果はきわめて限定**されてしまうことが判明したそうです。

このように、マンネングサはじめ、セダム属による屋上緑化は、**最近では否定的な評価**が多いようです。

ビオトープ・ナビ 雑学コーナー

記者：榎本幸実（会員）

【「すみわけ」と「くいわけ」-社会環境編】

規制緩和の功罪、評価は如何に？…**薬事法改正**（2009年6月施行）に見る**歪み**、失われる**多様性**？
販売は対面に限る…猶予期間2年。宅配に頼っている山村の**ひとり暮らしの老人**は、2年後どうなる？
伝統業者は、新規顧客を開拓できず、2年後には廃業か？…これらの**歪み**はどうする？厚生省は、2年の内に個々の業者に**対面販売の体制づくり**を促すだけ。

薬剤師が不要に…特定の薬品を除き、**薬品専門販売員**の資格を取れば**コンビニエンス・ストア**でも**薬の販売**を可能に。対抗したドラッグ・ストアは、**コンビニエンス・ストア化**で対抗。そんな中、**コンビニエンス・ストア**と**ドラッグ・ストア**の**両巨頭が提携**した。

最近、**専門家の影が薄くなり**（裁判官まで）、**責任は誰が**？…と首をかしげる制度や事業も。**規制緩和と市場競争優先**の取り組みが、**新たな競争社会**を生み出して行く。そして、**大企業は肥大し**、**零細企業は消失**して行く…同時に、**伝統の文化や技術も**、**身近な自然も**。

このままでよいのか？…かつては、**地域も**、**生業も**人々も、その土地の**自然を基盤に文化を育み**、**暮らしを共に**してきた。今を見直し、**すみわけ・くいわけ**で、**絶妙なバランス**を保ちながら**共存する自然界**を見習う必要がありそう…**持続可能な社会**を実現させるために。

科学技術の発展は**自然の仕組み**の理解から始まりました。**持続不可能**という**危機**が迫る今、**社会の仕組み**のあり方にも、**自然の中に多くの手本**が備わっています。

編集後記

国政選挙の予兆？ 8月30日の朝、我が家でも烏骨鶏の若い雄鶏がボスに挑戦、死闘の末に新しいボスが誕生。身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集：榎本幸実